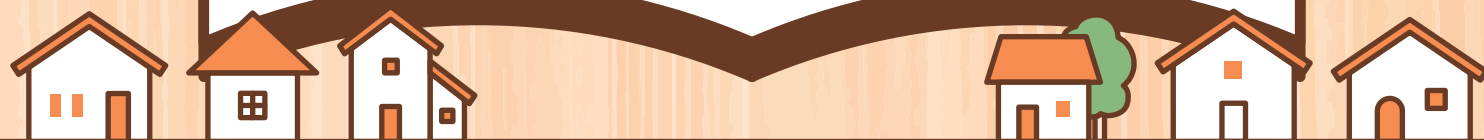


2025年版

木造住宅 耐震改修 事例集

お住まいの方や
工務店担当者の
コメントも掲載！



／ 耐震改修工事の具体的な事例を集めました ／

工期は
どれくらい
かかるの？

どんな工事で
どの程度の
費用が必要？

居住したまま
工事を行うことも
可能かな？

リフォームも
まとめて
できる？

省エネ改修も
同時に
進められる？



耐震改修の概要

地震被害の現状

鳥取県ではこれまでに、平成12年10月の鳥取県西部地震、平成28年10月の鳥取県中部地震により多数の建物被害が発生しました。また、近年、大地震が頻発しており、特に平成23年3月に発生した東日本大震災は、死者19,765人(令和5年3月1日現在、消防庁)、建物の全壊半壊40万戸以上(津波被害含む)と未曾有の被害をもたらしました。令和6年1月に発生した能登半島地震では死者245人、建物の全壊半壊2万9千戸以上(令和6年11月2日現在、消防庁)の被害をもたらしています。古い木造の住宅で特に被害が顕著で、多くの方の死因が家屋倒壊だったことが判明しており、住宅の耐震性が劣る住宅が多かったことが被害の拡大につながった可能性があります。



① 鳥取地震《昭和18年》

住宅 全壊 7164件 半壊 6,901件

② 鳥取県西部地震《平成12年》

住宅 全壊 391件 半壊 2,472件

③ 鳥取県中部地震《平成28年》

住宅 全壊 18件 半壊 290件

- 地震のときに受ける住宅被害の大きさは、震度と住宅の耐震性能(評点Iw)の関係により決まります。
- 評点(Iw)1.0 以上で現行の耐震基準相当の耐震性を有します。
- 改修時の費用はかかるが、評点が高いほど安全性が高いです。反対に、評点が高い住宅は倒壊する可能性が高くなります。

被害イメージ図		震度	5弱	5強	6弱	6強	7
被害	無被害		1.0 1.3	1.3			
	小破		0.4 0.7	1.0	1.3		
	中破			0.7	1.0	1.3	
	大破			0.4	0.7	0.7 1.0	1.3
	倒壊				0.4	0.4	1.0 0.4 0.7

【出典】井戸田秀樹、嶺岡慎悟、梅村恒、森保宏：在来軸組木造住宅における一般耐震診断の評点と損傷度の関係
耐震改修促進のための意思決定支援ツールに関する研究(その1)、
日本建築学会構造系論文集第612号、pp.125132、2007年2月

耐震改修の流れ

一般診断 省略ルート

一般診断を省略する場合、診断から設計までの期間を短縮できます。結果的に改修が必要なかった場合は、一般診断で判定した場合と比べて費用や期間が増加する(精密診断では、調査に伴い外装材の引き剥がし等を行う場合もある。)ため、明らかに耐震工事が必要な住宅等に対して有効です。

※耐震設計と耐震診断を併せて行う場合も、補助金(耐震設計補助)の対象となります。

耐震改修計画

耐震診断の結果、耐震性が所定のレベルに達していないと判断された場合には、倒壊しないようにどのように補強するか具体的に計画を立てます。そのための設計を耐震改修設計といいます。

①耐震改修計画

- 補強後の建物の強さ(総合評点)を決めましょう。
- 補強箇所や方法を決めましょう。

②工事見積

- 工事の見積もりを書面でもらい、確認しましょう。
- 予算を決めましょう。

耐震性の確認

一般診断

原則として内外装材をはがさない調査でわかる範囲の情報に基づいて診断します。

補強の必要性有

精密診断

内外装材をはがして調査し、より精密な診断を行います。

補強の必要性有

耐震改修計画

精密診断

(補強後の耐震性の確認)

耐震改修工事

精密診断 省略ルート

精密診断を省略する場合、費用及び期間を削減できます。劣化について部位別の診断を行っていないことから、過剰な補強工事となり、改修費用及び期間がかかる可能性があります。

耐震改修工事

耐震改修前



耐震改修後



耐震改修工事のポイント

代表的な耐震改修工法

地震力を受け止める耐力壁を設けることは、耐震改修工事の基本的な方法です。筋交いや構造用合板による補強が一般的です。

筋交い新設

筋交いが無いなど、耐力壁が不足している場合は、耐力壁を増強します。筋交いを新設することでゆがみを防ぎ止めます。



合板貼り

構造用合板を貼り付けることで、剛性を高めます。筋交いと併用することもできます。



金物取付

接合部が弱い場合、接合部を金物で補強します。地震の揺れにより、建物に変形すると、最も影響を受ける柱や梁・土台・筋交いの接合部に補強用の金物を追加します。



低コスト耐震改修工法(低コスト工法)

【低コスト工法について】

- 低コスト工法では、床や天井の撤去を最小限に抑えることで、コストを抑えられるほか、内装改修(仕上げ・下地材のやり替え等)に併せて耐震補強を行うことも可能です。
- 既存の床、天井、土壁の撤去が不要なので、コストや工期の縮減に繋がるほか、養生も必要最小限となり入居者の負担も少ないです。
- 一方で、補強材が露出する等見た目の問題や補強箇所数が増える等のデメリットがあります。

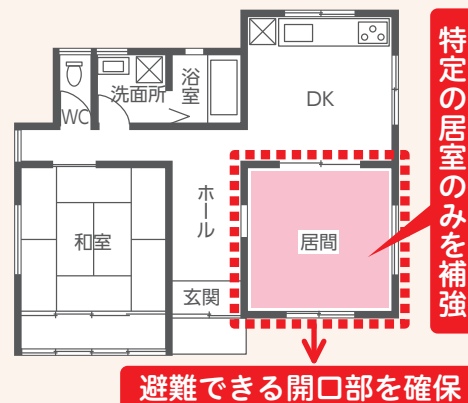
区分	在来工法		低コスト工法	
概要	①梁と土台の間に筋交いを入れて補強	②梁と土台の間を構造用合板で補強	③床天井の間のみを構造用合板で補強	④外側から金属の筋交いで補強
イメージ				
工事費(目安)	53 千円 / kN	34千円 / kN	14千円 / kN	28千円 / kN
①とのコスト比較	—	64%	26%	52%

出典:愛知建築地震災害軽減システム研究協議会「木造住宅低コスト耐震補強の手引き」

お住まいの状況に応じた耐震改修

1 居室単位改修

直接外へ避難できる開口部がある、寝室や居間などの日常生活における滞在時間が長い居室等で耐震性を確保することで、地震発災時に家屋の下敷きになることを防ぐことができます。住宅全体を改修するよりも費用や工期が少なく抑えられます。

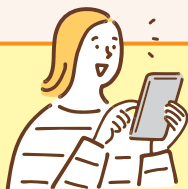


2 段階的耐震改修

住宅全体の耐震性(上部構造評点Iwを1.0以上とする)を確保できる耐震改修を一度に行うのではなく、まずは1階部分のみの耐震化や、上部構造評点Iwを0.7程度とする工事を行う等の段階的な耐震改修計画も可能です。

3 リフォームに伴う耐震補強

内装や水回りのリフォームに合わせて土台等の補強や筋交いの設置を行ったり、省エネ改修で断熱材を施工するのに合わせて壁を構造用合板で補強したりする等、別々に工事を行うよりも安価に、安全性と快適性を両立することができます。



耐震改修には助成制度があります

詳しくは別冊のパンフレット(QRコードリンク先に掲載)をご覧ください、裏面の市町村窓口にお問合せください。



無料

お住いの耐震化のための専門家を派遣します



お住いの耐震化のご相談内容に応じて専門家を派遣します。(費用負担はありません。)



対象の建物

- 以下の条件に全てあてはまる建物
- 平成12年5月31日以前に着工
 - 木造2階建以下
 - 一戸建ての住宅



対象者

対象の建物の所有者等で、耐震化について相談されたい方
※派遣時に申込者等の立ち合いが必要です。



派遣する専門家

- 建築士
…改修方法の相談 など
- 宅地建物取引士
…将来的な住宅の処分 など
- ファイナンシャル・プランナー
…資金計画の相談 など

申込方法

建物の所在地の市町村耐震関係窓口へお申し込みください。

※パンフレット裏面を参照

耐震診断結果報告書の見方

(様式2)

耐震診断結果概要書

この様式は、平成18年国土交通省告示第184号別添の「建築物の耐震診断及び耐震改修の実施について技術上の指針となるべき事項」第一 から四の方法により耐震診断を行った場合に、その概要をお知らせするものです。

診断者は以下の項目に沿って診断結果の概要を記載するとともに、詳細な資料を添付して様式1とあわせて依頼者に交付してください。

1 上部構造

□診断結果

	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性	診断結果
1	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い	○
2	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある	
3	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い	

*該当する診断結果部分に○印を記入すること。

□診断概要

階	方 向	各階の構造耐震指標等の値 (Is, Iw)	各階の保有水平耐力に係る指標 (q)	判定
8 F	X方向			
	Y方向			
7 F	X方向			
	Y方向			
6 F	X方向			
	Y方向			
5 F	X方向			
	Y方向			
4 F	X方向			
	Y方向			
3 F	X方向			
	Y方向			
2 F	X方向	0.56		倒壊する可能性が高い
	Y方向	0.73		倒壊する可能性がある
1 F	X方向	0.36		倒壊する可能性が高い
	Y方向	0.36		倒壊する可能性が高い

*木造の場合は各階の保有水平耐力に係る指標欄は記載する必要はありません。

*階数が8を超える場合等は適宜書き足してください。

診断者所見

最小値は1階X・Y方向の0.36となり、倒壊する可能性が高い。
開口が多く耐力壁となる壁の少なさ及び重心と剛芯のバランスが要因の一つと思われる。
補強診断により耐震改修工事を行うことが望ましい。

Iwが少なくとも0.7、
なるべく1.0以上を目指して
耐震改修を行います。



① 方向

ご自宅を上から見たときのX方向(横方向)、Y方向(縦方向)それぞれの耐震性能を確認します。

② 各階の構造耐震指標等の値(Is、Iw)

耐震性能の基準です。各方向で、もっとも低い値がご自宅の耐震性能の総合評価です。(Iw値についてはP1を参照)

③ 各階の保有水平耐力に係る指標(q)

木造の場合は記載ありません。

④ 判定

③の数値をもとに地震に対する安全性を判定します。Iw1.0未満の場合は倒壊のおそれがあります。

▼ 木造の場合

構造耐震指標	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性
$Iw < 0.7$	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する 危険性が高い 。
$0.7 \leq Iw < 1.0$	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する 危険性がある 。
$1.0 \leq Iw$	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する 危険性が低い 。

その他 ポイント

耐震診断(一般診断)で示される耐震改修概算費用はあくまでも目安の金額であり、壁を剥がして確認する等の詳細な調査による耐震診断(精密診断)や、改修プランの見直しにより、改修コストを抑えることができる場合もあります。

事例

01

低コスト工法を 採用した事例

総合評点

補強前 0.35

補強後 1.00

住宅概要

建築年

昭和55年(施工時築年数44年)

階数

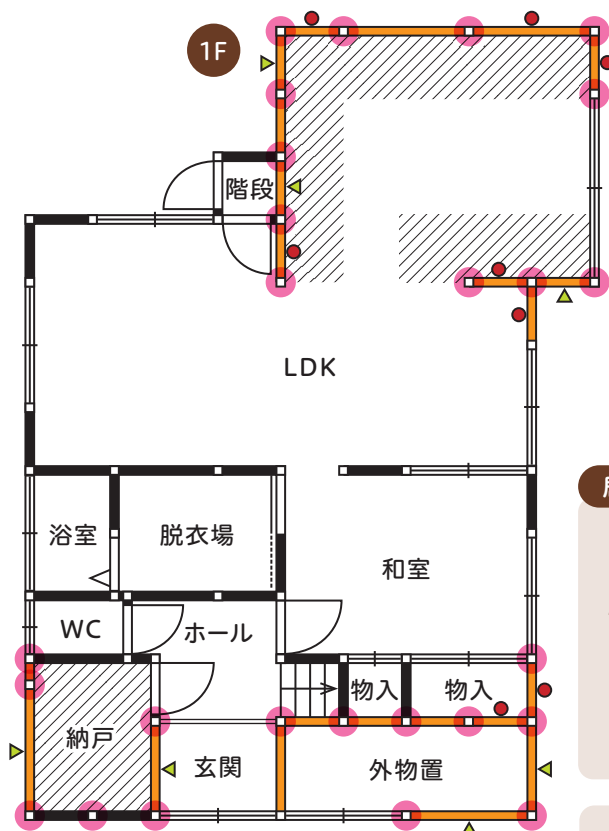
2階建て

延床面積

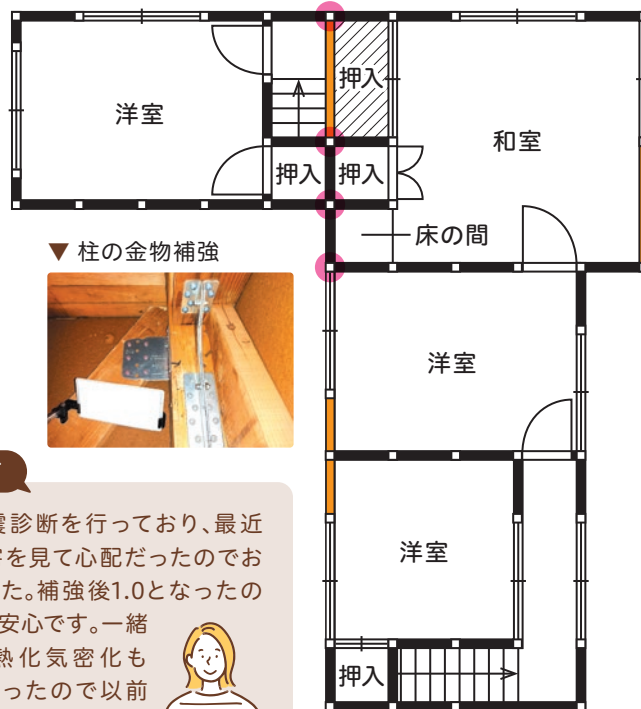
140.78㎡

工事概要

工期	令和6年8月～ 令和6年10月(3ヶ月間)	補強方法の 概要	低コスト工法あり	低コスト工法なし
			・柱、筋交い取り付け ・柱頭柱脚筋交い用の耐震金物施工 ・構造用合板等による耐力壁施工	
工事費	・耐震改修に係る額 264.8万円 ・補助金の額 120万円 (改修総額 417万円)	工事中の 居住	居住あり	居住なし



2F



▼ 柱の金物補強



居住者の声

以前に耐震診断を行っており、最近の地震災害を見て心配だったのでお願いしました。補強後1.0となったのでひとまず安心です。一緒に家の断熱化気密化もやってもらったので以前より温かく過ごせてます。



施工者のコメント

壁を解体した際に予期していない建築設備(電線・電線管など)が現れて、急遽予定していた工法を変更して施工しました。施工を予定していた柱・土台・梁の面が平らになっていませんでしたが、工法を評点のためにどうしても工法を変更することが出来ず、1部屋分ほぼ全ての梁及び土台の調整を行って耐力壁施工を行いました。低コスト工法の場合、構造用合板の値上げと継手受材を入れる手間を考慮すると今回使ったハイベストウッドの方が安く出来る場合もあります。また天井・床の解体を伴わない工法だけでは評点が1.0にならない事も多いので、模様替えと一緒に耐震改修を行うことがおすすめです。



【凡例】

- ▲ … 筋かい(シングル)による補強
- … 柱の金物補強
- … 筋かいの金物補強
- … ボード下地による補強
- ▨ … 構造用合板による床の水平剛性補強

・耐震診断 いなばハウジング株式会社
・設計 いなばハウジング株式会社
・工事施工 いなばハウジング株式会社

事例

02

低コスト工法を 採用した事例

総合評点

補強前 0.59

補強後 1.07

住宅概要

建築年

昭和37年(施工時築年数62年)

階数

2階建て

延床面積

104.20㎡

工事概要

工期	令和6年8月～ 令和6年10月(3ヶ月間)	補強方法の 概要	低コスト工法あり	低コスト工法なし
			・構造用合板による壁補強 ・筋かいの接合部を金物で補強	
工事費	・耐震改修に係る額 297万円 ・補助金の額 120万円	工事中の 居住	居住あり	居住なし



居住者の声

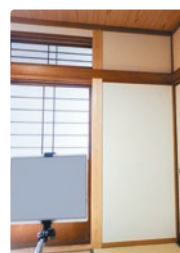
目に見えないことではありますが、普段の安心のために必要な工事として発注しました。施工して良かったです。



施工者のコメント

数年前に内装リフォームされており、調査推測とは違う所が多々ありました(柱がない、アングル金物が使えない)。その都度の変更で対応しましたが、解体してみないと分からない部分もあり、その点は苦労しました。

居ながら改修ということもあり、区分けをしながら、仕上げながらということで、工期的には長くなりがちです。低コスト工法、上下あきについては使い勝手は良いと思います。

▼ 和室
(仕上げ)

【凡例】

- … 構造用合板による補強
- … 柱取付
- … 筋かいの金物補強

・耐震診断 織田建築設計室
・設計 織田建築設計室
・工事施工 田中工業株式会社

事例

03

低コスト工法を 採用した事例

総合評点

補強前 **0.45**補強後 **1.05**

住宅概要

建築年

平成6年(施工時築年数31年)

階数

2階建て

延床面積

200.84㎡

工事概要

工期

令和6年9月～
令和6年12月(4ヶ月間)補強方法の
概要

低コスト工法あり

低コスト工法なし

構造用合板による壁補強

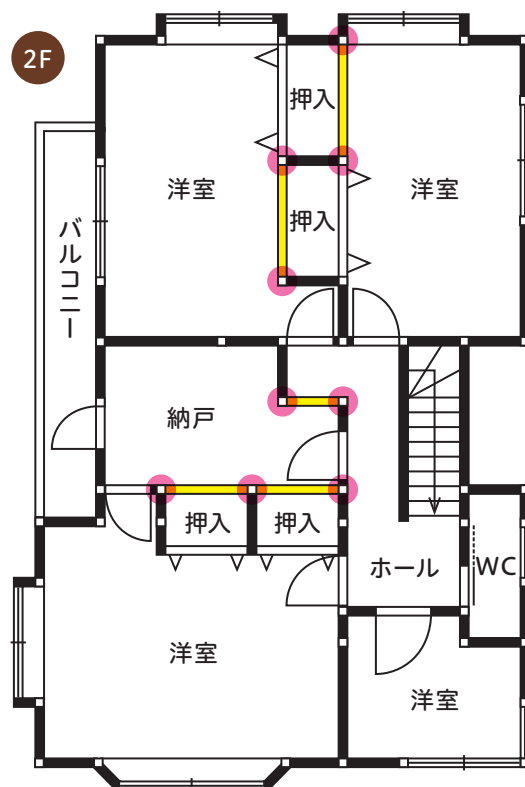
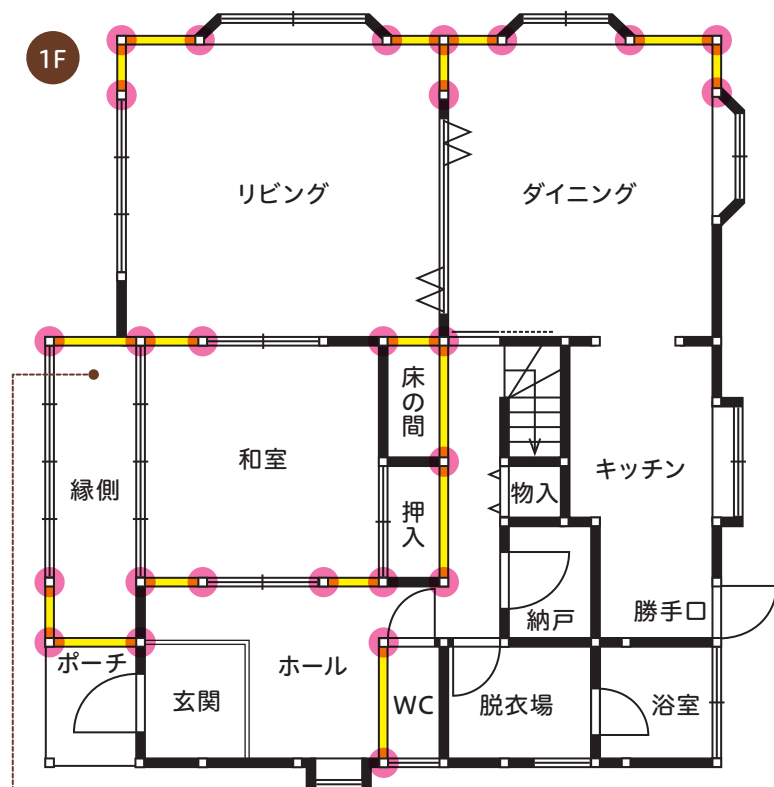
工事費

- 耐震改修に係る額 169.84 万円
- 補助金の額 120 万円

工事中の
居住

居住あり

居住なし



【凡例】

- … 構造用合板による補強
- … 柱の金物補強

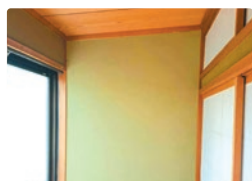
施工者のコメント

壁を剥がすだけでは、梁に柱頭柱脚金物が取付けにくいことが施工上の難点でした。



▼ 縁側
(構造用合板による補強)

▼ 縁側
(仕上げ)



居住者の声

昨今の地震の地震のニュースを聞いたときに、30年前に建て我が家が気になっていました。鳥取市の耐震診断を受けた結果は、「地震で倒壊又は崩壊する危険が高い」とのこと。市の補助制度の活用ができることもあり、早速耐震工事をするにしました。地震への備えは必要ですが、ひとまず自宅が耐震化したことでほっとしています。



- 耐震診断 久大建材一級建築士事務所
- 設計 久大建材一級建築士事務所
- 工事施工 久大建材株式会社

事例

04

リフォームと同時に 耐震改修した事例

総合評点

補強前 0.55

補強後 1.10

住宅概要

建築年

平成2年(施工時築年数34年)

階数

平屋建て

延床面積

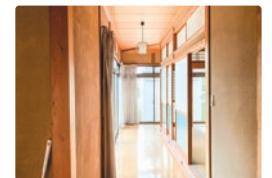
132.71㎡

工事概要

工期	令和6年1月～ 令和6年8月(8ヶ月間)	補強方法の 概要	低コスト工法あり	低コスト工法なし
			・間取りの改修 ・筋交い金物取付 ・劣化事象の補修	・柱頭柱脚金物取付 ・筋交いの取付け
工事費	●耐震改修に係る額 30万円 (改修総額 2,700万円)	工事中の 居住	居住あり	居住なし
			※空き家の改装	



▼ 和室・縁側(改修前)

▼ 和室・縁側(改修後)
※LDKに変更

【凡例】

- ▲ … 筋かい(シングル)による補強
- ▲ … 筋かい(ダブル)による補強
- … 柱及び筋かいの金物補強(上下)

施工者のコメント

●基礎が無筋でひび割れを数カ所確認したので基礎に影響を与えにくい中程度の強度とし、床・壁・天井を全面撤去する部分的スケルトン工事で安価な筋交いでの耐力壁を採用し、低コスト工法は採用しませんでした。

●なるべく費用をかけずに評点を上げる為、お客様の希望する改装部分のみで耐震性を上げられるように壁を剥がす部分の柱と筋交いの接合金物の取付けを最優先し、あとは偏心率を考慮しながらバランスよく筋交いでの耐力壁を配置しました。間取りの提案時点であるべく耐力壁を増やしバランスよく配置出来たため、耐震のための追加補強は少しで済みました。



・耐震診断 寿1級設計事務所
・設計 寿1級設計事務所
・工事施工 寿ホームズ株式会社

事例

05

段階的耐震改修の事例 (1階部分のみ)

総合評点

補強前 **0.57**補強後 **0.70**※1階部分 **1.03**

住宅概要

建築年

昭和63年(施工時築年数37年)

階数

2階建て

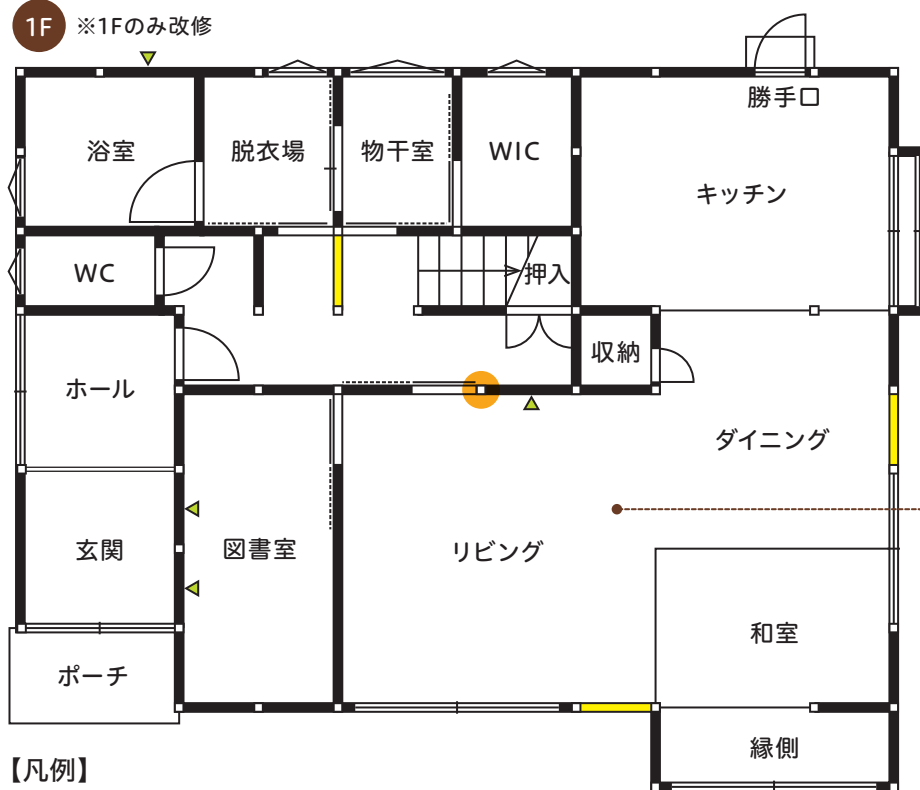
延床面積

120.31㎡

工事概要

工期	令和5年11月～ 令和6年3月(5ヵ月間)	補強方法の 概要	低コスト工法あり	低コスト工法なし
			・間取りの改修 ・柱頭柱脚金物取付 ・筋交いの取付け	・構造用合板張り ・筋交い金物取付 ・劣化事象の補修
工事費	●耐震改修に係る額 102万円 (改修総額 2,350万円)	工事中の 居住	居住あり	居住なし
			※中古住宅を購入し工事後に入居	

1F ※1Fのみ改修



【凡例】

▲ … 筋かい(シングル)による補強

■ … 構造用合板による補強

□ … 柱取付

※既存柱及び筋かい全てを
金物補強(上下)
(玄関・ホールを除く)

▼ 壁補強



▼ 和室・縁側(改修前)

▼ 和室・縁側(改修後)
※LD・和室・縁側に変更

施工者のコメント

●基礎が鉄筋入りでしたがひび割れを比較的多く確認したので基礎に影響を与えにくい中程度の強度で天井・床を剥がさず補強できるため低コスト工法を採用しました。

●なるべく費用をかけずに評点を上げる為、お客様の希望する改装部分のみで耐震性を上げられるように壁を剥がす部分の柱と筋交いの接合金物の取付けを最優先し、あとは偏心率を考慮しながらバランスよく耐力壁を配置しました。



・耐震診断 寿1級設計事務所
・設計 寿1級設計事務所
・工事施工 寿ホーム株式会社

事例

06

省エネ改修と同時に 実施した事例

総合評点

補強前 0.48

補強後 1.00

住宅概要

建築年

昭和41年(施工時築年数48年)

階数

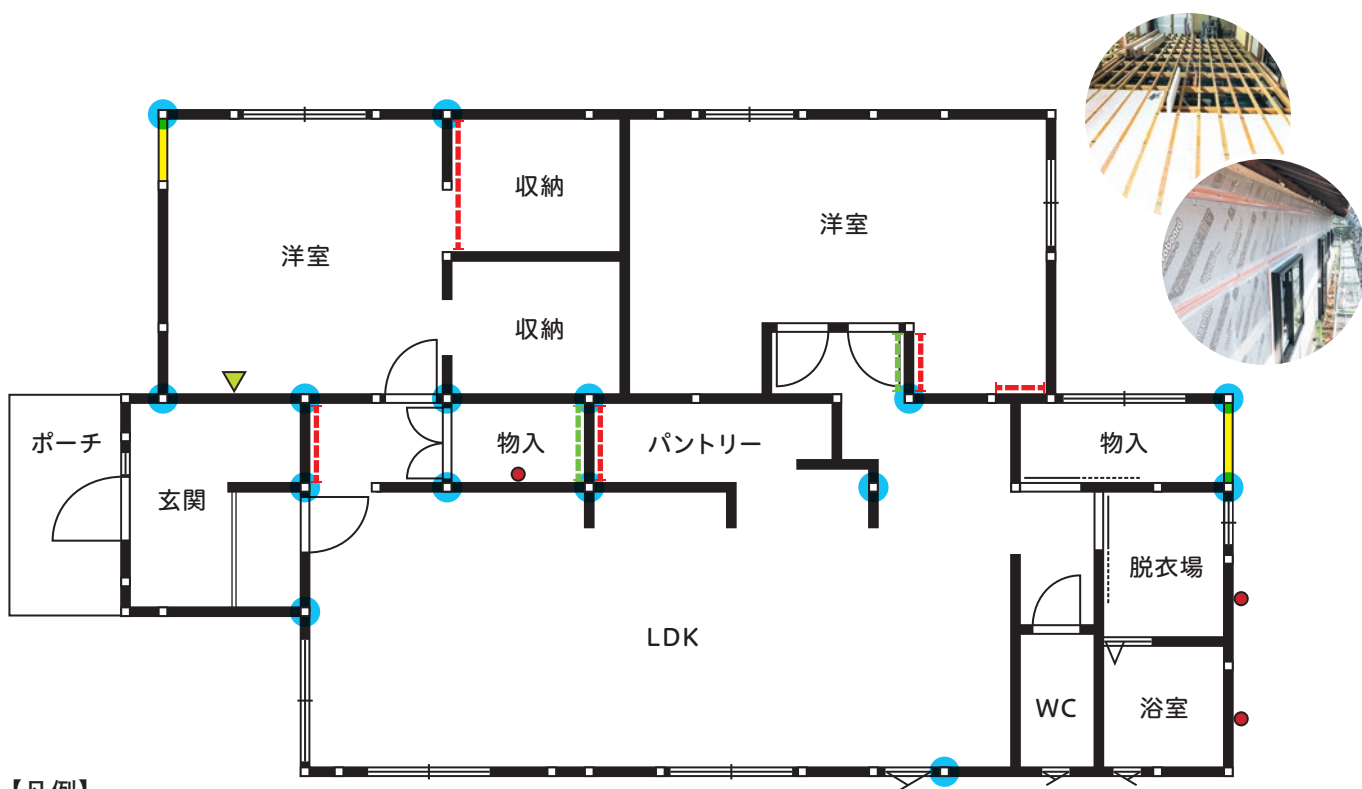
平屋建て

延床面積

121.87㎡

工事概要

工期	令和6年3月 令和6年8月(6ヶ月間)	補強方法の 概要	低コスト工法あり 筋交い・構造用合板・基礎の追加と補修
			低コスト工法なし
工事費	●耐震改修に係る額 74万円 (改修総額 2,255万円)	工事中の 居住	居住あり ※空き家の改装
	●Re NE-ST 補助金 79.4万円 ※1年以内に売却した場合	省エネ改修 の概要	(Re NE-ST) 床、外壁、天井に断熱材を追加



【凡例】

- … 間柱追加による柱補強
- … 頭つなぎ追加
- ▲ … 筋かい(シングル)による補強
- … 構造用合板による補強
- … 基礎補修
- … 筋かいの金物補強

施工者のコメント

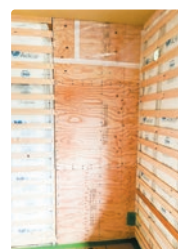
土壁を壊さず残して、解体費を削減し、耐力を生かした耐震補強計画を行いました。土壁を残すため、外張り断熱を行いました。



▼ 筋かい金物



▼ 構造用合板



・耐震診断 株式会社ミヨシ産業
・設計 株式会社ミヨシ産業
・工事施工 株式会社ミヨシ産業

事例

07

屋根の軽量化を併せて行った事例

総合評点

補強前 0.41

補強後 1.00

住宅概要

建築年

昭和50年頃(施工時築年数48年程度)

階数

2階建て

延床面積

135.61㎡

工事概要

工期	令和5年8月～ 令和5年12月(5ヶ月間)	補強方法の概要	低コスト工法あり	低コスト工法なし
			柱頭柱脚金物・構造用合板・筋違	
工事費	●耐震改修に係る額 477.4万円 (内、屋根改修費 223.3万円) ●補助金の額 130万円 (内、耐震改修補助 100万円、 屋根改修補助 30万円) (改修総額 3,715.8万円)	工事中の居住	居住あり	居住なし

▼ 筋交い補強



▼ 金物補強



▼ 屋根(改修前)

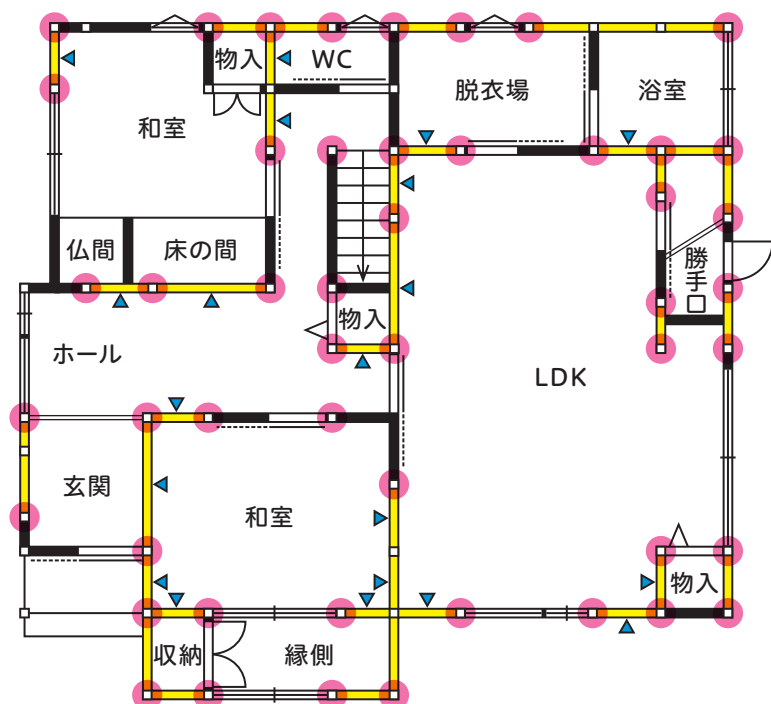


▼ 屋根(改修後)

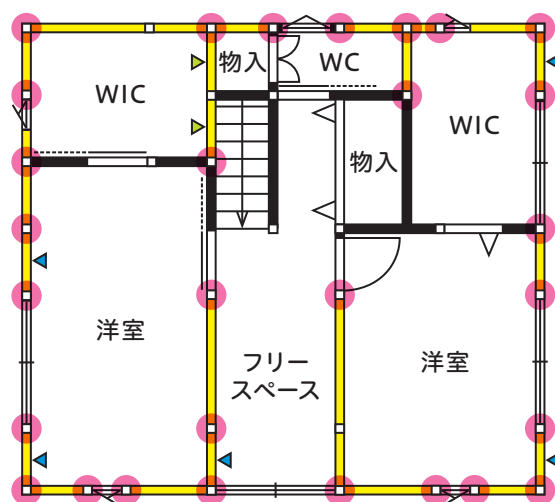


※屋根改修: 日本瓦葺き→金属板葺き

1F



2F



【凡例】

- ▲ … 筋かい(シングル)による補強
- ▲ … 筋かい(ダブル)による補強
- … 構造用合板による補強
- … 柱の金物補強

・耐震診断 株式会社e-MOMENT
 ・設計 耐震設計: 株式会社e-MOMENT / リフォーム設計: 株式会社井木組
 ・工事施工 株式会社井木組

県内木造住宅耐震改修工事実績一覧

《 改修後の評点が1.00以上となった事例 》

	延面積 (㎡)	階数	建築年	耐震改修費 (円)	評点		低コスト工法 採用の有無	改修 年度	所在地
					改修前	改修後			
旧耐震基準(S56年5月以前建築)									
1	63	2	S45	2,341,900	0.53	1.23	無	R4	境港市
2	76	2	S54頃	1,887,600	0.54	1.01	無	R4	倉吉市
3	79	2	S55	1,020,000	0.18	1.12	無	R4	米子市
4	88	2	S51	3,710,000	0.31	1.00	有	R5	鳥取市
5	94	2	S47	1,331,000	0.36	1.09	無	R4	倉吉市
6	96	2	S50	3,503,693	0.25	1.01	有	R4	鳥取市
7	104	2	S47	1,174,800	0.61	1.00	有	R4	米子市
8	105	2	S53	3,516,407	0.18	1.04	有	R4	鳥取市
9	108	2	S54	1,590,270	0.39	1.00	有	R5	鳥取市
10	112	2	S56	1,450,000	0.33	1.02	有	R4	鳥取市
11	116	2	S54	1,276,000	0.75	1.05	有	R3	米子市
12	118	2	S55	1,850,000	0.32	1.08	有	R5	鳥取市
13	119	2	S53	2,037,200	0.23	1.03	有	R5	米子市
14	120	2	S50	2,403,225	0.15	1.02	有	R4	鳥取市
15	122	2	S55	1,625,800	0.17	1.02	有	R4	鳥取市
16	134	2	S50	2,447,250	0.39	1.01	有	R5	鳥取市
17	136	2	S50	2,541,000	0.41	1.00	無	R5	倉吉市
18	136	2	S53	1,399,200	0.47	1.01	有	R4	米子市
19	138	2	S44	1,776,500	0.30	1.07	有	R5	境港市
20	148	2	S56	1,433,795	0.33	1.00	無	R3	倉吉市
21	157	2	S56	2,119,038	0.41	1.01	有	R3	鳥取市
22	192	2	S14	2,570,000	0.16	1.01	有	R5	米子市
23	211	2	S55	2,860,000	0.5	1.00	無	R4	倉吉市
24	223	2	S55	4,987,400	0.36	1.02	有	R4	境港市
25	228	2	S54	8,850,000	0.41	1.00	有	R3	鳥取市
26	245	2	M9	3,630,000	0.37	1.01	有	R4	米子市
27	317	1	S55	1,408,000	0.18	1.04	有	R3	境港市
新耐震基準(S56年6月以降建築)									
1	141	2	H6	3,410,000	0.23	1.01	有	R5	鳥取市
2	149	2	H8	1,434,180	0.58	1.06	有	R5	鳥取市
3	152	2	H9	1,190,000	0.27	1.00	有	R3	鳥取市
4	180	2	S57	1,879,140	0.36	1.08	有	R5	鳥取市
5	181	2	S61	3,630,000	0.56	1.00	無	R4	倉吉市
6	181	2	H11	4,200,000	0.51	1.04	有	R4	鳥取市
7	184	2	H9	1,970,000	0.32	1.04	有	R5	鳥取市
8	185	2	H6	1,595,000	0.79	1.00	有	R3	米子市

鳥取県内の耐震改修実績の一覧です。

ご自宅と同年代、同規模の住宅をご確認いただき、改修費用の目安の参考としてください。

《 段階的に耐震改修した事例 》 ※将来的に評点を1.0まであげる予定のもの

	延面積 (㎡)	階数	建築年	耐震改修費 (円)	評点		低コスト工法 採用の有無	改修 年度	所在地
					改修前	改修後			
旧耐震基準(S56年5月以前建築)									
1	129	2	S6	2,140,600	0.12	0.71	有	R3	鳥取市
2	163	2	S35	1,384,350	0.31	0.79	有	R4	鳥取市
3	182	2	S43	6,500,000	0.12	0.73	有	R4	鳥取市
4	188	2	S36	2,502,500	0.35	0.71	有	R5	鳥取市
5	204	2	S49	2,368,300	0.23	0.73	有	R4	倉吉市
6	270	2	T5	7,700,000	0.16	0.70	無	R3	倉吉市
新耐震基準(S56年6月以降建築)									
1	91	2	H8	1,938,200	0.33	0.75	有	R4	鳥取市
2	95	2	S63	1,278,878	0.41	0.78	有	R4	鳥取市
3	122	2	H3	1,868,628	0.21	0.72	有	R5	鳥取市
4	127	2	S60	1,320,000	0.32	0.73	有	R4	倉吉市
5	128	2	S63	2,090,000	0.33	0.70	有	R5	鳥取市
6	129	2	H1	1,900,000	0.27	0.70	有	R4	鳥取市
7	136	2	H5	1,336,500	0.28	0.70	有	R3	倉吉市
8	138	2	H8	418,000	0.64	0.71	有	R4	鳥取市
9	144	2	S58	1,900,000	0.19	0.74	有	R3	鳥取市
10	146	2	S58	1,337,600	0.14	0.70	有	R3	鳥取市
11	179	2	H3	1,320,000	0.76	《1階》 0.76 ↓ 1.02 《2階》 0.77	無	R3	境港市
12	187	2	S58	4,184,417	0.19	0.75	有	R5	鳥取市
13	228	2	H3	1,459,700	0.46	0.73	有	R4	倉吉市

自宅に近い実績を探して
比べると、必要な改修費用
の目安が見えてきます。



耐震に関する補助制度の詳細については、 下記の窓口へご相談ください。

最新の創設状況は
コチラ



■「市町村」制度に関するお問合せ・補助金の申請書提出先・補助制度創設状況

補助制度創設状況（令和7年3月時点）

お住まいの管轄	市町村窓口			耐震診断		改修設計	改修震・建替	除却	省エネ改修	居室単位改修	屋根瓦		シエルター耐震	高齢者等特例	耐震対策	非構造部材	耐震対策
				有料	無料						対策耐風	対策耐震	対策耐風	対策耐震	対策耐風	対策耐震	対策耐風
東部地区	鳥取市	都市整備部建築指導課	0857-30-8362	●	●	●	●	●	-	-	●	-	-	-	-	-	●
	岩美町	総務課	0857-73-1411	●	●	●	●	-	-	●	●	●	●	●	-	-	●
	若桜町	総務課	0858-82-2211	●	●	●	●	●	-	-	-	●	●	-	-	●	●
	智頭町	地域整備課	0858-75-4113	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
	八頭町	総務課防災室	0858-76-0203	●	●	●	●	-	-	-	-	-	●	-	-	-	●
中部地区	倉吉市	建設部建築住宅課	0858-22-8175	●	●	●	●	●	-	-	●	-	●	※	※	-	●
	三朝町	建設水道課	0858-43-3502	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	湯梨浜町	建設水道課	0858-35-5312	●	●	●	●	●	-	●	●	●	●	-	-	●	●
	琴浦町	建設住宅課	0858-55-7805	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
	北栄町	地域整備課	0858-37-3117	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
西部地区	米子市	都市整備部建築相談課	0859-23-5227	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-	-	-	-	●
	境港市	建設部建築営繕課	0859-47-1062	●	●	●	●	●	-	●	-	-	●	●	●	-	●
	日吉津村	総務課防災危機管理室	0859-27-5950	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	●	●	-	●
	大山町	総務課	0859-54-5201	●	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●
	南部町	総務課	0859-66-3112	●	-	●	●	●	-	-	-	●	●	※	※	-	●
	伯耆町	総務課	0859-68-3111	●	●	●	●	-	-	●	●	●	●	●	●	-	●
	日南町	総務課	0859-82-1111	●	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
	日野町	建設水道課	0859-72-0350	●	●	●	●	●	-	●	-	●	●	●	●	●	●
	江府町	総務課	0859-75-2211	●	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●

※…R7年度創設予定

■「県」耐震化の相談・制度に関するお問合せ先

〈東部地区〉 東部庁舎 東部建築住宅事務所 電話 0857-20-3648
 〈中部地区〉 中部総合事務所 建築住宅課 電話 0858-23-3235
 〈西部地区〉 西部総合事務所 建築住宅課 電話 0859-31-9753

■「県」耐震ケースマネジメント 専門家派遣制度に関するお問合せ先

専門家をあなたのお宅へ無料で派遣します！ 申込は上記市町村窓口へ

木造住宅の耐震化を促進するため、住宅所有者のご依頼に応じて専門家（建築士、宅地建物建物取引士、ファイナンシャル・プランナー）を派遣し、耐震化に関する相談を無料で行います。

鳥取県生活環境部 暮らしの安心局 住宅政策課

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220 TEL:0857-26-7697 FAX:0857-26-8113
 E-mail : jyutaku-seisaku@pref.tottori.lg.jp